

平成 22 年度
市民が共におこすまちづくり事業の
助成を受けた団体の事業ご紹介

♪ 結成のきっかけ

「楽器とつながっていたい」「子ども達に音楽に親しんで欲しい」、子育てをしながら日々思う中、「ママさんブラスバンド」結成の話題を耳にしました。「愛媛・今治でもつくりたい」と、ママさん二人がインターネット上で呼びかけをスタート。仲間が仲間を呼び、20 名程度で顔合わせを重ね、2007 年 11 月、愛媛初となるママさんブラスバンドが誕生しました。

「仲間に恵まれました。私はきっかけをつくっただけ。」結成の頃の出来事を丁寧にまとめたノートを繰りながら話すのは、呼びかけ人の一人河上さん。情報を得て、西条、新居浜、松山からも見学者があります。「レベルが高すぎたらどうしよう」、ブランクがあるママが抱きがちな不安は、和やかな練習風景にかき消されるよう。見学者のほとんどの方がメンバー入りを即決し、現在、40 名余りの団員に広がりました。

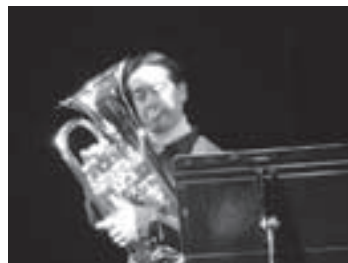


▲絵本を読んだり、音楽に合わせて踊ったり。中には寝てしまう子も。

▲練習風景に溶け込む子どもに「大丈夫かな」との戸惑いは一蹴されたとのこと。

♪ 活動状況

練習は平日の午前中が中心。子ども達も一緒に参加します。一般の吹奏楽団の練習は夜あり、子ども連れの参加も難しいのが通常ですが、このスタイルなら参加できます。「自分の子どもは自分で」を基本に、子どもを膝にのせ、楽器に向かう姿もありますが、当番制の「託児」システムも工夫。手遊び歌を楽しむ「キッズタイム」も取り入れました。「運営については皆で話し合います。育児サークルも兼ねた雰囲気ですが、“ママ友”ではなく、同じ目標を持った仲間なので言いたいことも言えます。」と、三代目代表の鈴木さん。家にこもりがちな子育て期にこそ、趣味を通して、ストレス発散する大切さを伝えたいと言います。



▲東京バリ・チューバアンサンブル団員の長谷川公彦氏がゲスト出演。

▼司会のらくさぶろう氏もびっくりの指揮者体験。子ども達&会場参画型のコンサート。



去る 3 月 13 日（日）、今治市中央公民館で開催した自主コンサート「はじめのいっぽ」ママたちの♡（ハート）ふれあいコンサート」は家族連れら約 300 名が来場。

楽器が好き！という共通の思いで集い、時間を共有するメンバー。「新曲に向かう時のドキドキ感」「いい音が出た時の爽快感」、忘れていたものと呼ばひ戻すかのように、楽器に向かう姿はとても美しいものでした。一人の女性として、子ども達を、音楽を、仲間を愛するあたたかい空間がそこにはあります。「楽器から離れてしまったけど、機会があれば…」と思っているあなた。「はじめのいっぽ」を踏み出してみませんか。

愛媛県初となるママたちによるブラスバンド！！
ラブ
団体名 マミーズ愛バンド・バステト

バステトの名に込めた思い

母性愛の象徴としてエジプト神話に登場する女神の名前です。音楽を愛する心と、子どもを愛する心を大切にしたいとの願いを込めました。



マミーズ愛バンド・バステト

http://ehimebastet.web.fc2.com/

今治市民活動センターだより

●今月の特集● 見る！聞く！学び合う！国際協力の世界 開催報告

夢サラダ Vol.49

2011.4.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPO サポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

新しい公共 -公共の概念はどう変わる-

「新しい公共」という言葉。政府が打ち出した新たなキーワードです。経済状況や社会環境の変化により、地域課題は多様化しており、行政だけが支える「公共」では解決が難しくなっています。企業・NPO などの民間が担う「公共」への期待が高まっているのです。

2011 年 4 月から 2 年間、企業・NPO・行政の協働による「公共」＝「新しい公共」の実現を後押しする様々な施策が展開されます。担い手づくり・活動の基盤整備などの様々な事業を、持続的な活力ある地域づくりにつなげるために！皆さんの思いも届けてください。



つなげよう、キュ！

焦点 1 地域で財源をつくる！

財政基盤の脆弱さ。NPO 法施行以来、多くの団体が抱える課題です。こうした中、日本の寄附文化の発展と躍進を目指す取り組みが各地で行われています。NPO 法人などへの寄附に対する税控除の拡充（寄附税制改革）、計画的に寄附ができる信託商品、インターネットを活用したファンドレイジング（資金調達）なども注目すべきことです。

「新しい公共支援事業」では、「融資利用の円滑化」「寄附募集など市場の整備（民間による寄附仲介ファンド（市民ファンド）の立ち上げ支援）」等が進みます。

焦点 2 担い手を広げる！

地域社会のつながりの希薄化。都市部のみならず、今治市でも浮かび上がってきています。主に小学校区単位で生活基盤を支える地縁組織、目的や趣味を共有し地域課題の解決に取り組む NPO。組織形態は違えど、共に「新しい公共」の担い手として期待されており、双方がいかに関「協働」し、「つながり」を再構築していくかが課題です。

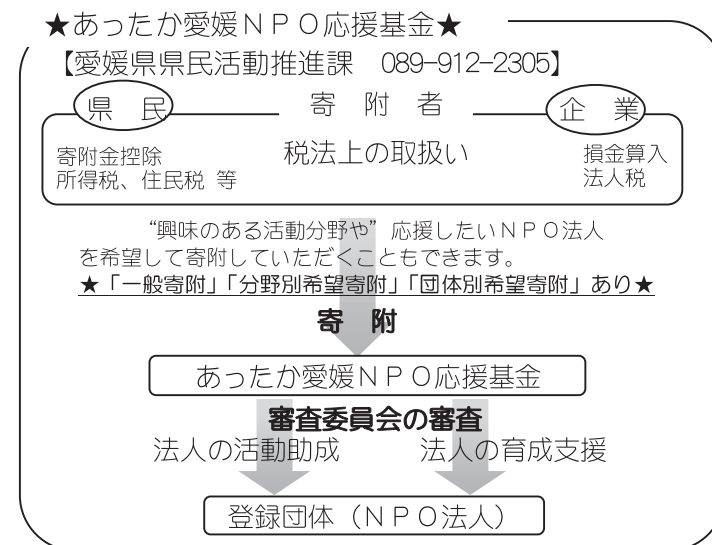
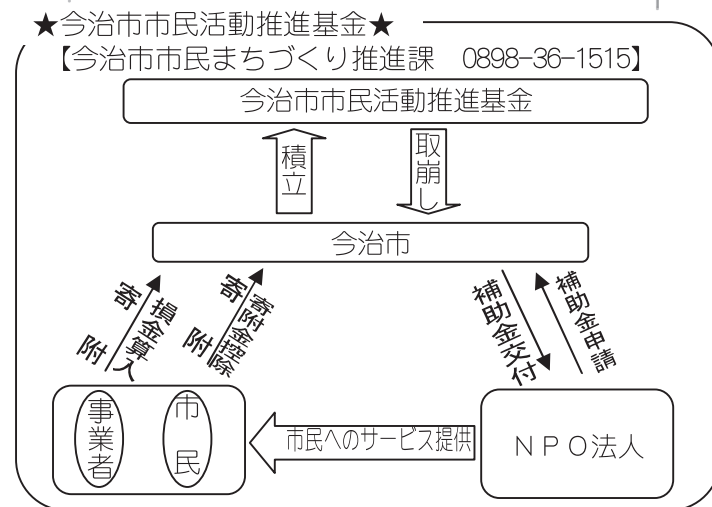
「新しい公共支援事業」では、地域の主要なステークホルダーとして、“地縁”と“NPO”が共に地域づくりに参画することを求め、全国各地で協働によるモデル事業が進めます。

去る 3/20（日）に開催した「まちづくりコーディネーター講座（1 回目）」。「新しい公共」の担い手育成を目指す。



【参加者募集】
2 回目：4/24（日）
3 回目：5/22（日）
陸地部・島嶼部でそれぞれ開催します。

県内では既にファンドのしくみがあります



大切なこと！情報開示による信頼性の向上

「場所、人材、寄附など」を発掘し、仲介するしくみをつくることと平行し、受け手（NPO など）の信頼性の向上が必須。

以下のようなことを ▼ すすめる予定です！

- NPO 法人新会計基準の普及セミナー開催
- 評価体系の確立と情報開示システムの議論

第3回社会参加と自立を考える



見る！聞く！学び合う！ 国際協力の世界

映画「おいしいコーヒーの真実」上映

コーヒー農家が受け取る対価は、私たちが支払う金額の1%に満たない現実。貿易の不正なシステムが問題で、国際商取引の現場に途上国の声が届かない不条理さを知りました。

映画は、エチオピアのコーヒー農家の代表が公正な取引（フェアトレード）を求めて奮闘するドキュメンタリー。農村で懸命に働くも収入はわずか。健康な状態を保てず、子ども達は未来を描けません。「子ども達に教育を受けさせたい。フェアトレードで少なからずUPした収入を村で蓄えよう。」皆で話し合い、意思決定する様子に見入りました。

エチオピアは、年間約700万人が、緊急支援を必要としています。アフリカの国際商取引の割合が1%上がるだけで、年間700億円を生み出すことができ、これは、この大陸が支援で得ている額の5倍に当たるとのこと。

必要なのは援助ではなく、自立を支援するプログラムなのです！



去る1月30日(日)、アイシネマ今治において、開発途上国への支援のカタチを考えるシンポジウムを開催！実践者を中心に、約50名の市民が事例共有やパネルディスカッションを通して、現地の人々を取り巻く環境の理解、自立できる暮らし実現を見据えた国際的な行動・協力について考えました。

「支える」、「つながる」ことで、社会の歯車を動かす可能性がある。「聞く」、「調べる」などして追及することで、活動の本質が見えてくることがある。そんなメッセージを共有する機会となりました。

☆フェアトレードとは☆

買うことは「選ぶ」こと
食品、洋服など、途上国でつくられた様々な商品。環境や伝統を大切にされた商品も多く、新しい価値に出会うことも！
作り手の生活の持続的な安定を目指すフェアトレード商品を、毎日の生活に取り入れてみませんか。

コーディネーターから

保護者の収入では生活できない、子ども達も労働力。そんなアジア農村部において、持続可能な自立生活を現地の人と共につくるNGO・JPCOM 桑原英文氏がコーディネーター。

事例発表団体との質疑の中で、現地を知っている一人としての様々な「期待」が投げかけられました。

安易な援助から一歩踏み込み、起きている事実に向き合う中で、納得して活動に参加して欲しいとエール！

by JPCOM 桑原英文

事例発表&パネルディスカッション

○今治東ライオンスクラフ

ミャンマー、ラオスとの国境に位置するタイ最北部のチェンライ県。寒暖の激しい地域に粗末な住居で暮らすのは避難民として移り住んだ少数民族。地域社会から存在を忘れられた環境への支援として、現地在住のメンバーと連携し、防寒着を送っている。

期待：「恵まれない人」ではなく、「恵まれない環境」にある人。社会的背景を理解し、現地の人と連帯した活動を行うことが大事。

○今治精華高等学校（通信制課程）

ペットボトルのキャップを集め、リサイクル事業者に買い取っていただいた売却益をワクチン購入費として寄付する取組に学校として参加。環境を考える行動にもつながる「エコキャップ運動」として広がる一方、効率性やコスト等の面で、継続する中での課題も。

期待：アルミ缶・キャップ収集 etc 企業責任に訴えることも必要。集める行動の意味を深彫りすると見えてくることも。

○インドマイトリの会

マイトリとはインドの言葉で「友愛」。お釈迦様「涅槃(ねはん)」の地という縁から理事として参画する高木さん。仏教の教えである「利他」の精神をもとに、経済成長が止まる日本において、NGO等の活動に若者を中心に多様な人が関わる意味を示唆。

期待：日本で活動に参加する意味とは？ボランティアマインドが育まれること、自身の行動（生活）が変化することも価値。



あなたが、スラムの人たちを前にして考えるべきことは、彼らのニーズとは何か、そのために何をするかということではなく、もし彼らやコミュニティが本来持っている力を発揮することができたならば、どう行動するかということ、そしてあなたはどのようにして、彼らの自由を拡大できるかということである。
by アマルティア・セン（ノーベル経済学賞受賞者）



「会場から「衣類を送りたい」との声が。身近な活動が認知される大切さを実感。」

○ガールスカウト日本連盟愛媛県支部第2団

ミャンマー難民に文具の入ったピースバックを送るプロジェクト(今は、形を変えて継続)。アルミ缶を集め、文房具購入費用を確保しながら、身の丈にあった活動を続けている。バッジをつけるなど、メッセージを込めた布袋は長く大事に使っており、励みになる。

期待：文具送付と教育支援が一体となったプロジェクトも！実践を知り、納得できるプログラムを選択することが大事。

○聖カタリナ大学

先進国の私たちと途上国の子どもたちが食事を分かち合うというコンセプトの「TFT」。途上国の学校給食1食の金額は20円。この金額を定食1食を食べるごとに寄付する。2008年10月に聖カタリナ大学の学食でスタートし、学生の自発的な取組を展開。

期待：学内でしくみが機能していることを評価。現地を知り、アドボカシー（政策提言）に踏み込むプロセスを。



「学校校舎の建設からはじまり、教科書配布、教師のスキルアップ、図書館での読み聞かせなど活動は多彩。」



（来場者）

・身近な団体の活動を知ることができた。
・「自立」支援の大切さ 手段と目的を混同しないようにとの示唆に感服。歴史的背景を学ぶ大切さを実感。

（登壇者）

・教育の現場でできることの可能性を感じた。
・バックグラウンドを勉強することの大切さを学んだ。